

『こんにちは県議会です』おでかけ意見交換会」開催概要

1 開催日時 令和8年1月23日（金）午後1時35分から3時35分まで

2 開催場所 飯田高校 大会議室

3 参加者

○飯田高校の生徒 17名

○依田明善議長、中川博司副議長（広報委員長）

○広報委員

早川大地議員、小林陽子議員、小林あや議員、勝山秀夫議員、藤岡義英議員

○地元議員

小池 清議員、竹村直子議員、川上信彦議員

4 開催内容

(1) 【第1部】生徒による発表

《テーマ》

- ・「ツツザキヤマジノギクの保全」
- ・「万古溪谷の魅力を伝えたい」
- ・「焼肉の街飯田の最強のタレをみつける」
- ・「リニアと飯田下伊那の未来」
- ・県立高校特色化推進事業 高校生による県立学校の魅力化プロジェクト
「リニア時代を見据えた地域課題から考える飯田高校の魅力化」

(2) 【第2部】意見交換会

(1) のテーマや「県政への若者の関心をどのように高めるか」等について意見交換、意見・感想等の発表



○ 開 会

(中川副議長)

皆さん、こんにちは。予定の時間は35分からですが、皆さん準備ができていますので、ただいまから「『こんにちは県議会です』おでかけ意見交換会」を開催します。

本日の司会を務めます長野県議会副議長で、広報委員会の委員長の中川博司と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

初めに、長野県議会を代表して、依田明善議長よりあいさつ及び県政報告を申し上げます。

○ 議長あいさつ・県政報告

(依田議長)

皆さん、こんにちは。ただいま御紹介を賜りました、私は長野県議会の議長を仰せつかっております依田明善と申します。「めいぜん」というのは、「明るい」という字に善光寺の「善」で「めいぜん」と読みますが、どうぞよろしくお願いいたします。出身は、八ヶ岳の麓の南佐久というところで、ほとんど皆さん行ったことがないと思いますけれども、そこで産湯につかって今日に至っているということでございますので、よろしくお願いいたします。

本日は、「『こんにちは県議会です』おでかけ意見交換会」を開催いたしましたところ、たくさんの方の皆さんの皆さんに御参加をいただきまして誠にありがとうございます。また、飯田高等学校の教職員の皆様には、多大なる御協力を賜りまして、厚く御礼を申し上げたいと思います。本当にありがとうございます。

本日の意見交換会は、皆さんのような若い世代の方々に県議会をもっと身近に感じていただきたいと考えまして、我々議員が皆さんの学校にお邪魔をして、直接意見交換をさせていただく「おでかけ意見交換会」として企画したものでございます。高等学校での開催は、実に8年ぶりになります。これからの長野県を担う皆さんの発表をお聞きしたり、意見交換ができる大変貴重な機会ということで、我々議員も本当に楽しみにしてまいりました。

ここで少し県議会の取組を紹介しますと、県議会では、教育だとか交通、災害、地域活性化、福祉、環境などの地域の課題、それから県政への提言など、皆さんの生活にも関わる大切なことが議論されております。また、県議会では、このような様々な地域の課題に取り組むことを目的として、条例を制定することもできます。例えば、最近制定した条例では、少子化・人口減少に対応するための「県民の希望をかなえる少子化対策の推進に関する条例」であったり、林業の発展やゼロカーボン社会の実現に向けた「信州の豊かな森林と環境を守る県産材利用促進条例」などを、議員の発案で制定したところでございます。

さて、皆さんは18歳になれば選挙権を持つことになり、25歳になれば市町村長、それから我々のような県議会議員、それから市町村議会議員や衆議院議員に立候補することもできます。これからの時代をつくる主役は皆さんです。本日の経験をきっかけに、ぜひとも県議会や県政への関心を一層深めていただきたいと強く願っております。

本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

(中川副議長)

ありがとうございました。

○ 飯田高等学校長あいさつ

(中川副議長)

続きまして、飯田高等学校の服部靖之校長よりあいさつをお願いいたします。

(飯田高等学校 服部校長)

皆さん、こんにちは。飯田高校の校長の服部と申します。

本日は、大変御多忙中にもかかわらず、依田明善議長、中川博司副議長はじめ、県議会議員の方々、はるばる飯田の地まで、心から歓迎申し上げます。併せまして、生徒たちが意見を発表する場面だったり、情報交換を含めて語る場をつくっていただいたこと、本当にありがたく心から感謝を申し上げます。

また、昨年12月15日、「『こんにちは県議会です』高校生との意見交換会」においては、高校生5名が参加させていただきました。そのときにお話させていただいた議員もいらっしやると思いますが、長野市と飯田市の距離を考えると片道160キロということで、なかなか県都長野の雰囲気を感じることができませんが、実際に長野に行って議場に立たせていただき、さらにはグループごとにはなりましたが、議員の方々に自分たちの考えを聞いていただく場面があったり、御助言をいただいたりということで、いろいろな方々と触れ合う場面をいただき本当にありがたく思っています。地域の課題等も含めて、こんなに真剣になって考える高校生がいること、大人がいることを感じて帰ってきたということは、子供たちにとっても、とてつもなく大きな収穫だったと感じています。

今、長野県教育委員会では、3か年の計画で「県立高校の特色化推進プロジェクト」という事業をやっているところであります。実際に長野県立高校においては、高校生が主体的に学校づくりに関わるということで、本校もそうですが、先生方や地域の方の声を聞きながらではありますが、高校生が自ら学校をデザインする。学校の魅力化について様々な事業を企画したり、計画したり、提案したりといったことをする。さらには中学生向けのキャッチフレーズやPRについても、高校生が自分たちの意見を述べることができるようになっていきます。

簡単に本校のキャッチコピー等を御紹介すると、中学生向けのキャッチフレーズは、「新発見！飯田からIIDAへ」となっています。最初の飯田は漢字の飯田で、後半の飯田は「IIDA」です。世界へ羽ばたくというイメージもありますが、中身については、泥臭く、地域をどうしていくか、地域協働というところをうたっています。学校紹介の一節には、「南信州の魅力や課題を深く知り、地域の皆さんと共に課題解決を目指しながら、新たな学力の可能性を追究します」とあり、加えて生徒たちは、「探究活動を通じて、地域や自分の未来を構想できる探究集団を目指します」とうたっています。地域というと、進学をメインにし

た飯田高校ですので、どちらかというとな向きに聞こえるフレーズに捉えられるかもしれませんが、泥臭く探究を学びの中核に据えて、地域との連携を進めながら地域を知ること、ここ飯田・下伊那地域を今後のステップアップの足がかり、よりどころにしてほしい。その上で大きく羽ばたいていくという、生徒たちの強い意思というか、決意を感じるころであります。

本日の経験は、参加生徒一人一人の人生をより豊かにしてくれることを確信しておりますし、こうした中山間地域においても、10代のうちに多様な他者の深い思考、世界観に触れ、また、人との交流を通じて視野を広げてほしいというふうに、学校をあずかるものとして感じているところであります。

本日は限られた時間の中ではありますけれども、有意義な会になりますことを祈念申し上げて、私からのあいさつといたします。皆様、どうぞよろしく願いいたします。

(中川副議長)

ありがとうございました。

○ 出席議員の紹介、進行方法説明

(中川副議長)

次に、本日出席の県議会議員を紹介します。

初めに、県議会の依田明善議長です。

(依田議長)

よろしく申し上げます。

(中川副議長)

次に、広報委員の皆さんを紹介します。

広報委員会副委員長、自由民主党県議団、地元の早川大地議員です。

(早川議員)

母校です。よろしく申し上げます。

(中川副議長)

改革信州の小林陽子議員です。

(小林陽子議員)

安曇野市から参りました。よろしく願いいたします。

(中川副議長)

新政策議員団の小林あや議員です。

(小林あや議員)

松本市から来ました。よろしく申し上げます。

(中川副議長)

公明党長野県議団の勝山秀夫議員です。

(勝山議員)

長野市から来ました。よろしく申し上げます。

(中川副議長)

日本共産党県議団の藤岡義英議員です。

(藤岡議員)

佐久から参りました。よろしく申し上げます。

(中川副議長)

次に、地元の議員を紹介します。

自由民主党県議団の小池清議員です。

(小池議員)

皆さん、こんにちは。OBです。よろしく申し上げます。

(中川副議長)

改革信州の竹村直子議員です。

(竹村議員)

下伊那出身です。よろしく申し上げます。

(中川副議長)

公明党長野県議団の川上信彦議員です。

(川上議員)

私も下伊那です。よろしく申し上げます。

(中川副議長)

なお、地元議員の小池議員及び竹村議員は、所用により途中退席されますので御了承ください。

次に、本日の内容について説明します。

本日の「こんにちは県議会です」の目的は、高校生の皆さんに県議会の活動や県政の関心を高めてもらうとともに、議員が高校生の意見や考え方を今後の議会活動に生かすため意見交換を行い、県政に反映させるというものです。

本日の前半は、飯田高校で取り組まれている地域探究ゼミや「高校生による県立学校の魅力化プロジェクト」の内容を生徒の皆さんから発表していただき、後半は発表していただいた内容に関することや、県政への若者の関心をどのように高めるのかということについて、議員と自由に意見交換を行っていただく2部構成となっています。

流れといたしましては、この後、第1部として、5つのテーマについてそれぞれ4分程度で発表をしていただきます。発表が終了しましたら、第2部として、テーマごとに4つのグループに分かれて、意見交換を約60分間行います。意見交換の進め方は、第2部の開始のときに改めて説明します。意見交換終了後、グループごとに生徒さん、議員、お一人ずつから感想などを発表していただき、全体での総括をして終了となります。

流れについての説明は以上ですが、大丈夫ですか。よろしくお願いいたします。

なお、本日の取組を広く県民に広報するため、概要等については、後日県議会のホームページに掲載いたしますので、よろしくお願いいたします。

【第1部】生徒による発表

(中川副議長)

それでは、第1部の生徒の皆さんによる発表に移ります。

最初に、飯田高等学校の地域探究ゼミで取り組まれている4つのテーマについて、順次発表いただきます。

まず、「ツツザキヤマジノギクの保全」についてお願いします。

(発表者の生徒)

私たちは、長野県のレッドリストであり、松川町の天然記念物であるツツザキヤマジノギクの保全活動を行っております。ツツザキヤマジノギクは、形態や生活型などが多様性に富んでおり、この特徴が大きな魅力です。天竜川の河川敷に咲くツツザキヤマジノギクですが、外来種の侵入が著しく、個体数の減少と絶滅の危機に陥っているため、平成10年から松川町で保全活動が始まりました。

私たちは、中学校の総合の授業でこの活動を始め、保全協議会の方やボランティアの方など、多くの人と関わるうちに、ツツザキヤマジノギクを多くの人に知ってほしい、保全活動に参加してほしいという思いが強くなり、高校でもこの活動を継続することにしました。また、ツツザキヤマジノギクを松川町のシンボルにして、松川町全体を盛り上げていくことも

目標に活動しています。

高校2年生では、長野県の伝統工芸品である水引を使って、ツツザキヤマジノギクをイメージした作品をつくりました。花の萼は梅結び、柱頭は玉結びを使い、ツツザキヤマジノギクを再現しました。それぞれの結び方に込められている意味にちなんで、ツツザキヤマジノギクを知っている全ての人の絆が固く結ばれていますようにという思いを作品に込めました。そして、この作品を11月に行われた花の観察会の参加者に配付しよう決めました。

10月には、松川中学校でツツザキヤマジノギクを勉強する中学生の皆さんと交流しました。交流では、お互いの探究内容の発表や、11月に行った花の観察会で配布した水引の作成などを行いました。交流会では、地元のケーブルテレビや新聞社の取材などに応え、ツツザキヤマジノギクを広めることにつながるいい機会になったと思います。

11月には、天竜川河川敷で行われたツツザキヤマジノギクの観察会に参加しました。観察会では、参加者への活動内容の発表や水引の配付を行いました。私たちの活動を知って、さらにツツザキヤマジノギクに興味を持ってくださったり、水引を身につけて周りの人に広めようとしてくださったり、より多くの人に知っていただける機会になりました。

さらに、日本のヤマジノギクを研究しているお茶の水大学特任研究員の中川さんともお会いしてお話を聞くことができました。3月に京都府で行われる種生物学会に招待していただき、日本中の種生物学を研究する高校生の話聞く機会をいただきました。

1年を通して、1年生の頃から目標にしていた水引づくりを、自分たちで行動を起こして実現し、皆さんに受け取ってもらえることができたのでうれしかったです。また、お茶の水大学の中川さんが研究してくださっていることを知って、中学校で探究していたときよりも人のつながりを感じることができて、世界が広がりました。

最後に探究の展望についてです。松川町には商店街の利用者が減っているという課題もあります。そこで、ボランティア参加者にスタンプカードを配付して、スタンプがたまったら商店街で使える商品券を配るとい、ボランティアと商店街の両方を活性化する活動を行いたいと考えています。まだ、具体的な案はありませんが、松川町外の人にも引き続きヤマジノギクを広めていく活動を行いたいと思っています。これで、私たちの発表を終わります。

(中川副議長)

ありがとうございました。ツツザキヤマジノギクって漢字で書けますか。「筒」に「咲く」という字を書いて、「山の路」と書いて、「野菊」ですね。ありがとうございました。

次に、「万古溪谷の魅力を伝えたい」についてお願いします。

(発表者の生徒)

僕は、「万古溪谷の魅力を伝えたい」というテーマで探究をしています。

上の青い矢印が飯田高校、赤い矢印が万古溪谷の位置を示しています。ここ飯田高校からは、直線距離で約17キロの位置にあります。

ここで、万古溪谷について簡単に説明させていただきます。天竜川の支流である万古川上流の飯田市の唐沢の滝から、泰阜村の二軒屋までの約7キロの区間、この地図で示した赤い

ところが万古溪谷になります。

僕がこの溪谷の魅力を伝えたいと思った理由は、小学生のときに参加した公民館主催のツアーで見た景色です。木々の間から差し込む光が幻想的で、その景色に惚れてしまいました。しかし、この素晴らしい溪谷を飯田市の人でも知っている人は少ないです。万古溪谷は、滝を間近で見ることができたり、溪谷の中を歩いたり、タカノキリの途中では溪谷を上から眺めることができます。こんなにも素晴らしい場所が南信州にあるのに、知らないのはもったいないと思い、南信州以外の人にも知ってもらいたいと思うようになりました。

そのために何ができると考えたときに、今はたくさんの方がSNSから情報を取っている。そしてSNSで情報発信をしているから、自分もSNSで情報を投稿して、この素晴らしい万古溪谷を広めようと思いました。そして実際に7月に万古溪谷を歩いて動画を撮ってきました。これが撮ってきたものを編集したものになります。

[動画再生]

このような動画をSNSに載せて、多くの人に知ってもらいたいと思います。そして、今後はこの万古溪谷の魅力を知ってもらい、多くの人を訪れる場所にしながらも、自然を壊すのではなく、きれいな自然を保全し、次の世代に残していく活動をしたいと考えています。以上で終わります。

(中川副議長)

ありがとうございました。

次に、「焼肉の街飯田の最強のタレを見つける」についてお願いします。

(発表者の生徒)

これから、私たちの探究テーマについて発表させていただきます。

私たちのプロジェクトテーマは、南信州の食文化である焼肉に注目し、その中でも、特にタレに焦点を当てることです。皆様のお手元にある資料と少し目次が変わっているので、こちらの目次で進めさせていただきます。

こちらは、私たちのリサーチプロセスです。まず、調査の目的を明確にするために目標設定を行いました。次に、テーマについての基礎知識を集めるために情報収集を行い、その後、実際に販売されている商品の特徴を知るため、市販のタレの調査を行いました。集めた情報を基に結果の解釈をし、足りない部分については追加で情報収集を行いました。最後に、調査結果を基にネクストアクションを考え、それを実行するという流れです。

まず、この探究テーマにしようと思ったきっかけについてです。南信州では、家庭や部活動、地域の集まりなどで焼肉をする機会がとても多いと感じてきました。焼肉は、南信州を代表する食文化の一つだと考えています。そこで私たちは、焼肉そのものではなく、焼肉に欠かせないタレにも地域性があるのではないかと考えました。同じ焼肉でも、タレが違うだけで味の印象が大きく変わるため、そこに南信州らしさが現れるのではないかと、この

テーマを選びました。

次に、今回の探究のポイントです。私たちが特に大切にしたい点は、焼肉ではなくタレに注目したところです。肉は全国どこでも似たものが手に入りますが、タレは材料や味のバランスによって、その土地の特徴が出やすいと考えました。

この探究の最終の目標は、南信州の食材を使ってオリジナルのタレを商品としてつくることでした。そのために市販のタレを調査し、原材料や価格、製造の流れについて調べました。しかし、調査を進める中で、材料費が想像以上にかかることに加え、商品として販売するには企業の方の協力が必要不可欠であることが分かりました。また、食品を商品化するためには、衛生管理や表示など、多くの基準やルールを満たす必要があることも知りました。さらに、3月までという限られた期間でそれらをクリアするのは難しいと考えました。これらの理由から、私たちだけで商品化まで行うのは難しいという結論に至りました。その結果、最終目標を飯田らしいタレのレシピをつくることに切り替えました。

私たちは、飯田らしいタレのレシピを考える過程で、飯田市にはなぜ焼肉が根づいているのかという疑問が上がりました。その疑問を解消する仮説として、親戚などで集まる機会が多く、定番料理として焼肉が根づいたのではないかと仮説を立てました。その仮説を検証するために、私たちは飯田市にある味噌のお店であるマルマンというお店の取締役の中田さんという人にお話を伺いました。中田さんのお話で、飯田市の焼肉の文化に関わりがあると思った3つのポイントは、天龍村にある平岡ダム、満蒙開拓、飯田市で盛んだった畜産という点です。

天龍村の平岡ダムでは、ダムの建設に朝鮮人労働者が多く関わったことで、朝鮮人から肉を焼く文化が伝わったのではないかと。満蒙開拓の際に、中国の肉を焼く文化が伝わったのではないかとという話を伺いました。また、飯田市では畜産が盛んだったため、肉を無駄なく食べるために、肉を焼く文化が伝わったのではないかとすることも伺いました。飯田市で畜産が盛んだったことで、今、飯田市で多く食べられているマトンやホルモンを食べるという特徴につながったということも伺いました。

次に、飯田市にはどんな焼肉のタレがあって、どんな違いがあるのだろうかという疑問が生まれたので、実際に食べて比較をしてみることにしました。皆さんから向かって右側がマルマンさんのみそたら、同じ会社のたれたら、硯さんの焼肉醤油、しろ田屋さんの焼肉のタレ、小池手造り農産加工場さんの心打たれ、同じく硯さんの焼肉旨塩を食べ比べしてみました。実際に複数の焼肉のタレを調べていく中で、南信州らしさは味だけではなく、使われている食材やつくり方に現れていると分かりました。多くのタレにもろみや米麴などの発酵食品、リンゴやニンニクといった地元でなじみのある食材、さらにだしが使われていました。食べ比べでは、例えばリンゴや昆布だしが使われたタレからは、甘みとうまみのバランスを大切にしている南信州の文化を感じたり、比較的辛味の強いタレが多いことを感じたりしました。このように南信州の焼肉のタレは、素材の味を生かし、家庭で親しまれてきた食文化が反映されていると考えました。

最後に、今後の展望です。南信州には十久保南蛮やゆず、マイヤーレモン、市田柿、清内路にんにく、酒粕などの特産品があります。今後はそれらを生かし、南信州らしさがより伝

わる新しい焼肉のタレのレシピをつくりたいと考えています。

これで私たちの発表を終わります。

(中川副議長)

ありがとうございました。

次に「リニアと飯田下伊那の未来」についてお願いします。

(発表者の生徒)

これから「リニアと飯田下伊那の未来」についてお話しします。

リニア中央新幹線が、2034年以降開業見通しとされています。飯田市にリニア駅が完成予定ということで、まず私が思ったことは、すごくうれしいし利用したいと思っていました。一方で、通過駅になるのではないかという不安があって、飯田・下伊那に人を呼びたいと思うようになりました。

この探究を1年やってきて、主に取材をたくさんやってきたので、それを発表しようと思います。この探究でお話を伺った方は、旧飯田測候所に携わる方、飯田市役所リニア推進課の方、南信州の伝統芸能を学ぶ大学院生の方、県内の高校生と県議会議員の方です。お話を伺って、まずは現状を知りました。飯田・下伊那に人を呼ぶためには、何か行動を起こす必要があるという現状から、飯田・下伊那にしかない魅力を見つけること、そして飯田・下伊那だけの魅力に新しく付加価値を加えて、より魅力的な地域をつくるのが大切だと思いました。

この探究での気づきや変わった考え方があります。それは、今まで気づけていなかった飯田・下伊那の魅力や課題、そして飯田の注目度をもっと高めたいということ。また、飯田・下伊那という地域で売ることの大切さに気づきました。そこから、まずは飯田・下伊那の地域を知り、地域に伝えるということが大切だと気づきました。

探究のゴール、まとめです。南信州で見つけた魅力の一つとして、清内路の手づくり花火というものを挙げたいと思います。村民が火薬から製造している全国で唯一の花火で、約300年も続いている伝統です。そして、清内路の花火大会の副会長の方が、なんと県外の方で、ここに来て関わりたいと思える魅力や迫力を県外の方が見つけるというのは、すごく素晴らしいことだと思いました。飯田・下伊那に人を呼ぶためには、まず、清内路の花火のように魅力を発見すること。まだ知らない魅力を見つけ出すこと。そして次に、地域の方に自分が見つけた新しい魅力を共有すること。その次に、飯田・下伊那の魅力を県外の方に伝えることと、あとは県外の方から見た地域外からの新たな視点をいただくこと。そして最後に、県内外の異なる意見を合わせて新しい魅力を発見することです。

これからの発信方法について。手に取りやすくて分かりやすいという2つが合わさったチラシをつくる予定です。地域の魅力や飯田のリニア駅について書かれたものを、地域の共有スペースや人通りの多い場所に置く予定です。参考として、上諏訪温泉の親湯というところにつくられたチラシをつくらうと思っています。表にはインパクトのある画像と、裏にはその詳細が書かれています。このチラシのすごいところは、今は写真が2枚ですが、何種

類も書かれたものから興味があるものを持っていけるということで、たくさんの種類のチラシをつくる予定です。

最後に、リニアをきっかけに飯田・下伊那を目的地にしましょう。
御清聴ありがとうございました。

(中川副議長)

ありがとうございました。

続きまして、「県立高校特色化推進事業 高校生による県立学校の魅力化プロジェクト」の取組を発表いただきます。「リニア時代を見据えた地域課題から考える飯田高校の魅力化」についてお願いします。

(発表者の生徒)

これから、「リニア時代を見据えた地域課題から考える飯田高校の魅力化」について発表します。

まず、魅力化に向けたここまでの経緯を紹介します。県内普通科設置校の魅力化計画として、長野県によって3年分の予算が割り当てられたことから話が始まりました。今年度はその1年目に当たり、今後の魅力化の方針を定める必要があります。生徒自治会と先生方で話し合いをする中で、私たちは重大な境地に立っていることに気づきました。そこで、全校生徒や地域の声を取り入れて今後の方針を決めるべく、魅力化に向けたシンポジウムの開催を決定しました。

ここで、シンポジウムとは何か簡単に説明します。シンポジウムとは、特定のテーマについて複数人が意見を交わし、観衆も参加してそれを聞く、いわば公開討論会です。今回このシンポジウムにおいては、公開討論に参加する登壇者をパネリスト、司会をファシリテーターと呼びます。

続いて、今回の魅力化及びシンポジウムの趣旨を説明します。近い将来リニア中央新幹線が開通し、ここ飯田・下伊那と都市部の間の移動時間が短縮して、利便性が向上することが期待されています。一方、このことによって人口が流出する懸念もされており、飯田・下伊那の中学生が、東京や名古屋など県外高校へ進学することも考えられます。そんな状況の中で、飯田高校が存在し続けるためには、都市部の高校に負けない魅力を発信しなくてはなりません。これこそが、先ほどあった重大な境地です。飯田高校でしか学べない、体験できないことには何があるのか。今、私たちは飯田高校の魅力について意見を交わし、それを探って磨いていく必要があるのです。これが魅力化の全容であり、今回のシンポジウムは飯田高校魅力化の出発点となります。

それでは、シンポジウムの詳細を説明します。シンポジウムは3月6日金曜日、13時から15時15分の2時間15分を予定していて、場所は本校の小体育館です。本校の1、2年生と先生方に加え、外部からパネリストをお招きして開催します。内容は、まず基調講演をお聞きしたのち、パネリストによる公開討論が2部構成で行われ、最後に総括講演があるという流れです。

続いて、パネリストの紹介をします。まず、ファシリテーターに鳥取大学地域学部教授の筒井先生、そしてパネリストに信州大学大学院総合理工学研究科助教の吉武先生、長野県立大学地域コーディネーターの新井先生をお招きします。本校校長の服部先生にもパネリストをお願いしています。そして、ここに生徒4人のパネリストを加えた計8人で公開討論を行います。吉武先生には基調講演を、筒井先生には総括講演をお願いする予定です。

最後に、今後の流れを説明します。1月29日のロングホームルームで、シンポジウムの詳細を全校に告知し、シンポジウムに向けた幾つかのテーマについて考えてもらう時間を取ります。この日から希望者を募って、生徒パネリストの決定も進めていきます。その後の2月16日の生徒大会にて、全校で考えたテーマについての意見やアイデアを共有します。お招きするパネリストの方々と打合せを重ね、生徒パネリストも決定して、3月6日のシンポジウムを迎えます。生徒大会で出された考えを生徒パネリストが共有し、それらを基に実際に討論が行われる予定です。

時代の過渡期にあって、自分たちの母校である飯田高校を自分たちの手で残すべく、自分たちで魅力を発信していく。これが私たちの願いです。

飯田高校の魅力化についての説明は以上となります。御清聴ありがとうございました。

(中川副議長)

ありがとうございました。本当にどの発表も、議員もたじたじになるようなテーマがいっぱいありまして、びっくりしました。ありがとうございました。

【第2部】意見交換

(中川副議長)

それでは、第2部の意見交換会に入ります。

現在ご着席のグループごとに、意見交換を3時10分まで約60分間の予定で行います。

各グループで話し合うテーマはあらかじめ決めてありますので、それぞれ2つのテーマを中心に意見交換をお願いします。なお、2つのテーマの時間配分は各グループにおまかせします。

生徒の発表テーマのみとなっても構いません。

進行は各グループの進行役の生徒さんをお願いしています。意見交換は結論を求めるものではありませんので、活発で自由な議論をお願いします。時間の目安として、30分経過時と終了10分前になりましたら、事務局からアナウンスをさせていただきます。

意見交換終了後、各グループの生徒さんと議員、お一人ずつから意見交換を終えての感想などを発表していただくことになっています。発表時間の目安は、お一人当たり2分程度としておりますが、もし時間がなくなってしまった場合には、生徒さんのみの発表とさせていただきますので、あらかじめ御了承をお願いします。

進行方法については以上ですが、大丈夫ですか。

まずは自己紹介から始めていただければと思いますので、それでは進行役の生徒さん、お

願います。

【 意見交換 60分 】

○ 意見、感想等の発表

(中川副議長)

皆さん、まだお話ししたいこともたくさんあるかと思いますが、大変盛り上がっている途中ではございますが、ここで意見交換は終了させていただきたいと思います。

グループで話し合った内容や感想の発表に移りたいと思います。各グループの生徒さんから、それぞれ2分程度お願いしたいと思います。

最初にAグループの生徒さん、お願いします。

(Aグループ生徒)

Aグループの司会をしました。

Aグループでは、すごくいろいろな話題を満遍なく話したんですが、どれもいろいろな意見が出て、参考になることがすごく多かったので、こういう機会がこれからどんどん増えていったらいいなと思いました。

(中川副議長)

続いて、Bグループの生徒さん、お願いします。

(Bグループ生徒)

Bグループでは、「南信州の食文化」というテーマだったんですが、その中で焼肉について重点的に話していて、リニアが通ることで焼肉のお店が立退きになってしまっていて、リニアが来ることで人を呼び寄せたいのに、飯田市が焼肉のことで有名と伝えたいのに、焼肉のお店が立ち退きになってしまっているということはすごく悲しいことだなと思いました。リニアが通ることはすごくうれしいことですが、自分たちが住んでいる町にある大事なお店のことも、ちゃんと守っていききたいなと思いました。

それと、共通テーマの「若者の関心をどのように高めるか」ということでは、このグループの高校生たちは、最初に「県政」と聞いたときにすごく堅いなとか、ネガティブでマイナスなイメージを持っていたんですが、今こうやって県議の方とお話できて、すごくラフな感じで楽しく話せたということを行っています。今日みたいな活動が、今日は生徒会のメンバーが大半ですが、生徒会のメンバーだけじゃなくて、1年生とか生徒会と全然関係ない人に参加してもらって、県政のことをすごく知ってもらえるような機会を今より多く増やしてもらえたら、こちらとしてもうれしいなと思いました。

(中川副議長)

続いて、Cグループの生徒さん、お願いします。

(Cグループ生徒)

Cグループでは、「南信州の未来について」がメインで、「高校の魅力化と県議会の広報に共通する関心の高め方」についてはお話できなかったんですが、リニアが飯田に通ることに関してたくさんお話をしました。

便利と自然というのは相反するような存在ではあるんですけども、自然を守りつつも飯田市を発展させていくにはどうしたらいいのかとか、リニアが通ることによってどういう人たちにメリットがあって、こういうところにはデメリットがあるなということを詳しく話すことができたので、帰ってから個人でいろいろ考えてみたいなと思いました。

(中川副議長)

続いて、Dグループの生徒さん、お願いします。

(Dグループ生徒)

Dグループでは、まず先ほどの意見発表の感想をそれぞれラフに語り合ってから、テーマ2つについて、メインは「南信州の課題と飯田高校の魅力化について」ですが、「県政への若者の関心をどのように高めるか」という話も、バランスはそこまでよくはなかったんですが、話ことができました。

1つ目のテーマに関しては、飯田高校の魅力化を図っていくという中で、参加して下さった議員のお二人は、どちらも飯田の方ではないということで、今この話合いの中だとか、発表を聞いて感じた魅力を共有していただきました。その中で、自分の中で当たり前だったもの、例えば飯田高校は結構校則が緩めだよとか、考えてみれば確かに人は静かだけれどもその分温かいとか、そういう新しいものをつくるというのを魅力化として考えやすい中で、今あるものを魅力として捉えることができた。自分の中で当たり前だったものが変わったというのは大きかったかなと思っていて、外からの目線と中からの自分たちの目線の両方が共存することで、魅力化というのはより進んでいくのかなと思います。あとは先輩の考えの魅力化ということで、外とか中ではなくて、飯田高校の中のかつての先輩方、同窓会の皆さんとかの発想を取り入れていくのも、1つのいいベクトルなのかなというのを感じました。

2つ目の関心をどう高めるかという話では、議員のお二方が考えていることから、自分たちの感じ方を共有して話を進めていったんですが、一番自分のインパクトに残ったのは、緊張と緩和のギャップという考え方の話でした。人がぱっと見たときに何か第一印象を持って、それをそのまま持ち続けているとあまり関心が生まれなくて、何かきっかけがあって、例えば今日みたいな話合いの場だったり、SNSで流れてきた情報だったりギャップを感じたときに、何かそれに引き込まれていくような動作というか、ところがあるのかなと感じました。なので、今後の県政への関心を高めるのもそうですし、生徒会の中でも、自分が会長として真面目な印象を持たれているところで、もう少しみんなと交流ができるような場を設

けて緩和していくという、そういうギャップを持っていくという発想を得られました。
全体として、とても楽しい話合いです。

(中川副議長)

ありがとうございました。

それでは、今度は各グループの議員から感想をお願いします。

最初にAグループの勝山議員、お願いします。

(勝山議員)

今日はありがとうございました。いろいろお話を聞かせていただいて、リニアを早くやってほしいなという要望はすごく感じました。それと、政治への関わりですが、もっともっと早い段階から政治の勉強をするような仕組みにしてほしいと、そんなような御意見はすごく大事なことなので、すぐにはできないですが、進めていきたいと感じました。

あと、今日のプレゼンテーションですが、皆さん本当に上手で感動しました。

それから「飯田愛」が皆さんあるなと感じて、私は初めてツツザキヤマジノギクと聞いて、万古溪谷ですとか、焼肉のタレの発想の転換もすごいし、今日は体験できないですが個人的にもう1回飯田に来て、じっくりと楽しみたいなと思いました。今日はありがとうございました。

(中川副議長)

続いて、Bグループの川上議員、お願いします。

(川上議員)

お世話になります。今日このBグループで皆さんとお話させていただいて、こちらは焼肉のタレの探究をしていただいている皆さんですが、そこから材料になっているリンゴや野菜、そこから食文化で生菓子や五平餅、改めて本当に皆さんが地域のこういうことを学ぶ機会になっているのを感じました。飯田市の魅力を感じ取り、またこれから広げていただけるんじゃないかと、非常に期待と喜びを持って、地元ということで参加させていただきました。

こういう機会を通じて、私も新たな発想で県政に取り組めるのではないかと思っているのでも、またこういう機会をぜひつくっていただければうれしいなと思いました。ありがとうございました。

(中川副議長)

それではCグループの早川先輩議員。

(早川議員)

貴重な経験ありがとうございました。元飯田高校生徒会長でございます。ラグビー班です。まず、リニアに対して高校生の皆さん、本当に一生懸命考えてくれているということがう

れしかつたです。県議会の一般質問で取り上げるといろいろな声が聞こえてきていますが、我々のテーマは「南信州の未来について」。やはり地域の未来をどうやって豊かにしていくか、すごく難しさを感じると思いました。地域の魅力と付加価値がどうやったら外に広がるかということで、やはり持続可能なことにしていくには、ここに来てくれた人にこの魅力を体験してもらって、できれば経済効果が波及するようなことをしていかないと広がっていかないんだなということを感じました。

また、高校生のほうがすごく勉強していて、地域のつながりが、未来はもっともっと希薄になってしまうんじゃないかと。例えば、組合に入らない。消防団にも入らない。じゃあ誰が私たちを助けてくれるんだということ、高校生は大人をそう見ているということで、すごくびっくりしました。PTAに関して、高校生のほうが見ているなということで、やはり持続可能な地域のつながりとどういうふうに波及していくか。またリニアがストロー現象になってしまって、中学・高校はスポーツ校だったり進学校に出ていってしまって、飯田高校に危機が訪れるんじゃないかなと、危機感を持っているということは素晴らしいなと思いました。またこういう機会を大切にしたいと思います。ありがとうございました。

(中川副議長)

続いて、Dグループの小林あや議員、お願いします。

(小林あや議員)

本当に今日はありがとうございました。すごく充実した時間を過ごさせていただきました。広報部会の皆さんも、私たちがこの間県庁で県議会の説明をしたときの、あの笑いの様子、とても楽しかったそうです。やはり身近に感じる事ができると、それだけ入口のハードルも低くなって、ちょっとお堅い人たちかなと思っていたところが、普通のおじさんとおばさん……とは言ってないですね、普通の大人なんだなと感じてもらえた。それが安心感につながったと言ってくれました。たぶんほかのグループのみんなも、県庁に来てくれたお友達はそのようなふうに考えてくれたのかなと想像していますが、うれしかったです。

今日話し合った中でやはり思いましたのは、どうしても意識していないと同質な集団に偏りがちになってしまうと。その偏りがちになってしまうルールが、どうしても自分の常識になりがちという、そういう同質ならではの陥りがちな、アンコンシャスバイアスと言うんですが、偏見みたいな。そういったものをいろいろな人たちの話を聞いていろいろな経験をして、その中から自分と同じでない人たち、同質でない人たちというものもいるんだなと。その存在に気づいたことが、まずは1つ目のカルチャーショックになると思うんですね。そのカルチャーショックから、今度は自分と同じでない存在に慣れていく。その過程こそが、私は若者らしさの象徴なんじゃないかなと。今のみんなの歳だからできるんじゃないかなと思いました。ぜひこれからの人生の中で、カルチャーショックと、そして経験に慣れていって、自分たちが今度どんな社会をつくっていくかということを考えていってもらえるといいなと思いました。

最後、将来の夢を聞いてみました。いい先生に出会えてきたから、そんな先生になりたい

という教育者を目指す方がいらっしやったり、社会で人助けをしたいということから起業家になりたいとか、薬の研究をしたいとか、最後は私たち県議会と話し合いをするような中で、実は教育者になりたいという夢があったんだけど、だんだん話をするうちに変わってきて、政治家になりたいと思ってくれる人もいました。このように私たちもいろいろな関わりを持つ中で、学び、学び合い成長していきたいと思います。ありがとうございました。

(中川副議長)

ありがとうございました。

○ 飯田高等学校長、議長所感

(中川副議長)

それでは、校長及び依田議長から感想をお願いしたいと思います。

まず、服部校長をお願いします。

(飯田高等学校 服部校長)

皆さん、本日は本当にありがとうございました。校長として、子供たちがこんなに生き生きとしているのは、恐らく私が授業をやってもこんなふうにはならないだろうと思って、素晴らしい空気感を議員の皆さんのお力添えで生んでいただき、今、心が感動で満ちあふれているのが正直なところです。

今日は生徒会の生徒が中心だったり、地域探究ゼミというところで、皆さんまだ完璧ではないと思いますけれども、研究の成果等々を深めていることをここで発表してもらったんですが、自分自身を客観的に見るような、そういった意見交換の場もありました。未来志向でなかなか答えはすぐに見つからないけれども、みんなでああでもない、こうでもないと言いながら対話するという、この時間は本当にかげがえがないと思っていました。

将来のことをいろいろ考えると、この飯田・下伊那地域というのは、今の中学校3年生が1,400人ぐらい、今度高校に入ってくる子たち。昨年5月1日現在の出生数は810人程度ということで、15年後というとなんか大体30歳ちょっと、親になっている人もいるかもしれませんが、そのときに高校に入ってくる子供たちが、この地域だけで見ても500~600人減ることです。40人で割り返すと、13~15学級の減。この地域で一番規模の大きい飯田OIDE長姫高校が今7クラス、飯田高校が6クラス、合わせて13クラスが募集を停止するような状況になってしまうことを考えると、我々教員も、未来を皆さんに託すよ、任せたよと言っていられないぐらい、本当に今どうするべきかということを生徒の皆さん、さらには県議の皆さんにもお力添えをいただきながら、一緒に考えていかないといけないなど。そういう地域が長野県の各地にあると思いますので、こういった議論をどんどん広げていっていただきながら、長野県の未来を語れるような場があっちにもこっちにもできるといいなと感じました。

本当に楽しいひとときをありがとうございました。

(中川副議長)

服部校長、ありがとうございました。

次に、依田議長から、全体のまとめも含め感想をお願いします。

(依田議長)

皆さん、長時間大変お疲れさまでございました。

総括ということですが、私はAグループでお話をさせていただいたので、皆さんのほうでもだいぶ盛り上がっていたんですが、時間があればそちらにもまた参加できればと思いました。

今日は非常に活発に意見も出たわけですが、私いつも思うんですが、本当に皆さん、いつ県議会議員になってもいいくらいレベルが高い。やはりレベルの高い高校に来るとこれだけ違うんだなということで、僕が高校の頃だと全くこういう機会がなかったし、そういう発想もなかったんですが、今日は大変勉強になりました。

それから、私の参加したAグループは「南信州の自然環境」ということでしたが、南信州だけに限らず長野県全体を考えて、議論も非常に白熱しました。長野県は非常にいろいろな地域に魅力があるという話、そしてその魅力をどうやって発信していくかということは、やはりそういった魅力を見つけることが得意な人、それからそれを発信するのが得意な人、いろいろな人たちがいるので、その地域のポイントになる人を育てていくということも大事だねという話もありました。

それから、飯田の人形劇の話が出ました。飯田の人形劇がなかなか広まらなくて残念だという話があったんだけど、実は我々が韓国に行ったときに、早川県議も一緒に行って、韓国の江原道の人形劇の皆さんが飯田にも来たことがあって、前から交流があるという話を聞いてきたんです。だから、ぜひそういった点においては、皆さんも自信を持ってしっかりと交流をして、この地域に根づいた文化というのをどんどん発信していただければいいかなと感じました。

それから、私たち県議会議員は、県民の皆さんに、どうすればより多くの人にここにずっと住み続けたいと思ってもらえるのか、どうすれば長野県がもっと魅力的になるかということについていつも考えながら活動しているわけです。本日、これからの長野県を担う皆さんとこうしてお話しをすることができたということは、熱い意見を聞かせていただいたということは、今後の議会活動にも十分生かせると思います。

早川県議も、人形劇のことをこの間の一般質問でやりましたね。これからも継続して、どんどんPRしてもらえばいいかなと。人形劇だけでなく、ほかにもいろいろな魅力がたくさんあると思いますので、それをしっかり発表していただければと思います。

結びといたしまして、開会するときにも申し上げましたけれども、これからの主役は皆さんです。本日をきっかけに県議会や県政に一層の関心を持っていただくことを御期待するとともに、より魅力的な長野県を一緒につくっていきましょう。前途有望な皆さんのこれからの御活躍を心から御祈念申し上げまして、御挨拶とさせていただきます。本日は誠

にありがとうございました。

(中川副議長)

依田議長、ありがとうございました。

○ 閉 会

(中川副議長)

5分早く始まって、5分早く終わるという、大変素晴らしい進行に御協力いただきありがとうございました。生徒の皆さん、会場内の皆さん、長時間にわたり御参加いただき、改めて御礼を申し上げます。

以上をもちまして、「『こんにちは県議会です』おでかけ意見交換会」を終了いたします。
本当にありがとうございました。